

2008/2009 平成20年度



初めての表彰式には、女子柔道の**上野雅恵選手**(中央)や、車いすテニスの**国枝慎吾選手**ら、受賞者の指導を受けたアスリートたちが祝福に訪れた。「私がメダルをもらうたび、中野先生に何かしてあげられないかといつも気にかけていた」と上野選手

スポーツを支える「縁の下の力持ち」。 その隠れた功績にスポットを当てる 新たな表彰制度がスタート。

「そうした表彰ならすでに存在する。もう少し考えてみてはいかがでしょう?」。事務局が用意した素案に耳を傾けながら、こう助言して下さったのは当財団理事の**岡崎助一氏**(当時・日本体育協会専務理事)だった。「スポーツ界の発展に寄与したトップアスリートや指導者を表彰する」というプランに対して、「この財団ならではのコンセプトが必要」という注文だった。

まだ歩みを始めたばかりの小さな財団の事務局の中には、もっとスポーツの現場の実態を知らなくてはならないという意識が常にあった。そうした課題を抱えながら現場に出かけてみると、そこにはスポーツ報道などには取り上げられることのない「縁の下の力持ち」たちの姿があった。全国には、身を削ってスポーツの底辺を支えている指導者や支援者が大勢いる。そうした人びとにスポットを当てることで、チャレンジすることの素晴らしさや努力は報われるといったメッセージを社会に発信できるのではないかと。岡崎理事が求めたのは独自性のあるコンセプト。それが決まった。

やがて16件の推薦が競技団体や報道機関から寄せられた。事務局では2度にわたる選考委員会を開き、初の功労賞に北海道新聞の推薦による柔道指導者・**中野政美氏**、奨励賞に日本障がい者スポーツ協会の推薦による車いすテニスコーチ・**丸山弘道氏**を決定した。中野氏は女子柔道の普及に努めるとともに、高校柔道の指導者として後にオリンピック等で活躍する選手たちの基礎を築き、丸山氏は車いすテニスの指導法の確立に挑んで**国枝慎吾選手**など世界トップの選手を輩出した。まさに全国で奮闘する「縁の下の力持ち」を代表するような人物だった。

表彰式には受賞者を祝福する大勢の関係者が駆けつけた。そうした人びとが口々に話したのは「メダルをもらうたび、中野先生に何かしてあげられないかといつも気にかけていた」(上野選手)、「僕たちを支えてくれる丸山コーチにスポットが当たったことが何より嬉しい」(国枝選手)という喜びの言葉だった。

北京オリンピック・パラリンピックが開催されたこの年、平成20年12月から施行される「公益財団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」に向け、かねてから準備を重ねてきた公益財団法人認定の申請を行った。また、「スポーツ界の縁の下の力持ち」を讃えるヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞を新設し、その第1回受賞者として**中野政美氏**(功労賞)と**丸山弘道氏**(奨励賞)を選出。年度末のスポーツ・チャレンジ・ウィークの併催行事として表彰式を行った。

スポーツチャレンジ助成事業

第1期生の実像を通じて、求める人材像のイメージが明らかになったことから申請件数は約4割減り117件となった。その一方、「絞り込まれたことで申請者全体の質は上がった」というのが審査委員の実感でもあり、体験助成の申請者全体の平均年齢は、第1期生では34.8歳であったのに対し、第2期生では26.8歳と大幅に若返る結果となった。体験助成ではサッカーの**岡本達也選手**が2年目のチャレンジに突入り、またパラ陸上の多川知希選手が山本篤選手からバトンを受けて第2期生に加わった。

■平成20年度(第2期生)助成概要

	申請数	採択件数	助成金額
体験助成	29件	13件	1,014万円
研究助成	65件	12件	1,692万円
奨学生	23件	6件	720万円(1年分)
計	117件	31件	3,426万円

スポーツ振興支援事業

■ジュニアヨットスクール葉山

スクール創立から30年を迎え、6月14日に葉山マリナーで記念式典「夢・誇り・絆」を開いた。当日は100名以上のOB・OGや歴代の指導者が集まり旧交を温め合うとともに、北京オリンピックに出場する卒業生、**鎌田奈緒子選手**らに激励のメッセージを贈った。一方、30年の指導実績に裏打ちされたジュニア選手向けの指導テキストとDVDを制作し、全国のジュニアスクールに向けて配布(一部販売)を開始した。



■セーリング・チャレンジカップIN浜名湖

全国17クラブからジュニア・ユース世代の62選手が参加。北京オリンピック代表の**飯島洋一選手**、**松永鉄也選手**、**上野太郎選手**が特別アドバイザーとして参加して、講演や出場選手へのアドバイスなどを行った。

■スポーツ教材の提供

事業名を「スポーツ教材の提供」と改めて提供先を募集。191件の申請の中から抽選により46件の提供先を決定した。また6月14日に発生した岩手・宮城内陸地震で被災した宮城県栗原市から申請のあった2団体については、特別枠を設けてスポーツ教材を提供した。

■全国児童 水辺の風景画コンテスト

20回目の開催を迎え、全国から5,291作品が寄せられた。「働く海」「美しい海」「生きる海」「楽しい海」の4部門を設定した結果、幼児および低学年からは水辺での体験を描いた作品が、また高学年の児童からは水辺の産業や水棲生物を描いた作品が多数寄せられた。

スポーツ文化・啓発事業

■第1回ヤマハ発動機スポーツ振興財団 スポーツチャレンジ賞



【功労賞】**中野 政美氏**
女子柔道の世界レベル選手の育成と女子柔道の発展



【奨励賞】**丸山 弘道氏**
北京パラリンピック金メダルへのチャレンジ